

提言

見事なり桜の散り際。
長期の君臨に美学なし。
本誌主幹 大中吉一

東京は桜の季節も終わり、花見客で賑わった喧噪も遠のいた感がある。そんな中、聞こえてきたのが1年後の平成31年4月30日に行われる新天皇の即位である。つまり、ここから1年間リーダーたちは「平成」の総決算をしなければならない。

来るべき2020年の東京オリンピックパラリンピックもさることながら、平成の時代に起き上がった問題にきちんとけじめをつけて次の時代へと引き継いでいくことが、今のリーダーたちに求められているのだ。

前にも書いたが、安倍首相は北朝鮮の拉致問題について、最後の一人まで残らず連れ帰ると明言したはずである。それから15年余りが過ぎ、拉致問題は一步も前進しないどころか、解決の糸口さえ見えない。これ以上、横田めぐみさんのご両親をはじめとする拉致被害者と関係者の皆さんの心が痛むことの無いよう、きちんと総決算をしなければなるまい。置き去りと言えば、年金の未払い問題もしかりである。こうした「平成」の課題に対し、安倍総理はしかるべき道筋とけじめを示し、総決算に向けての動きを明確にする必要があるのだ。森友加計問題に明け暮れ、空転する国会では、こうした課題の解決への道筋は見出せまい。早くきちんとけじめをつけ、「平成」の課題に取り組んでいただきたい。

さて、未来に目を向ければ、賑わった桜の下に今年も数多くの外国からの観光客がいた。願わくは、増加する海外からの観光客の皆さんが日本の四季折々の美しい姿を満喫し、日本に好感を持っていただければと願う。日本の誇る、日本人の勤勉さとおもてなしの心を大切に、より多くの海外からの観光客を迎え入れる態勢を作り上げなければならない。すでに年間3000万人前後の観光客が来日していると思われるが、2020年五輪終了時点ではおそらく年間4000万人を超えるであろう。

日本の大きな財産である、環境立国と技術立国に加え、今まさに観光誘致を推進していただきたい。国民ひとりひとりが観光立国を意識し、おもてなしの心を持ち、海外からの観光客に対して積極的に声かけられるようになれば自ずと観光立国に近づくのだ。

困っている海外からの観光客に「May I help you?」と気軽に声をかけられるようになることを願う。

長きにわたる制覇が権力の腐敗を招くのは歴史の語る真実である。安倍首相も、フジテレビの日枝久氏も、読売の渡邊恒雄氏も、潔さと引き際の美学を大切に、「平成」の総決算を意識したけじめのつけ方をお考えいただきたい。

桜の花びらの散り際に美学を見出した日本人の心を思い起こし、権力と地位にしがみつくなのではなく、いかに美しく潔く去るのか。

男らしい、日本人らしい、平成の総決算をお願いしたい。